

平成 31 年度（令和元年度）

全国学力・学習状況調査の結果



平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果（霧島市）

1 実施期日 平成 31 年 4 月 18 日（木）

2 実施概要

- (1) 対象学年 小学校第 6 学年、中学校第 3 学年
- (2) 対象教科 小 6 は国語・算数、中 3 は国語・数学・英語（初めて導入、3 年に一度実施予定）
- (3) 調査内容
- 国語、算数・数学は、「知識・技能」に関する問い(昨年度までの A 問題)」と「活用」に関する問い(昨年度までの B 問題)」を一体的に出題
 - 英語は「聞くこと」「読むこと」「書くこと」に関する問題（記述式）と「話すこと」に関する問題（口述式）調査を出題
 - 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査を実施

3 結果概要（平均正答率は、平成 28 年度から県と市は整数値、全国のみ小数点以下も公表）

(1) 小学校平均正答率

- ・ 国語は昨年度と同様に全国をやや下回っている。算数は全国よりも 3.6 ポイント下回っていることから、課題が継続している。

教科		平成30年度 (上段は平均正答率、下段は平均正答数)			令和元年度 (上段は平均正答率、下段は平均正答数)		
		本市	県	全国	本市	県	全国
国語	A	70 8.5/12	70 8.4/12	70.7 8.5/12	63 8.8/全14問	66 9.2/全14問	63.8 8.9/全14問
	B	52 4.1/8	53 4.2/8	54.7 4.4/8			
算数	A	65 9.1/14	64 9.0/14	63.5 8.9/14	63 8.9/全14問	65 9.2/全14問	66.6 9.3/全14問
	B	49 4.9/10	49 4.9/10	51.5 5.1/10			
理科		60 9.5/16	59 9.5/16	60.3 9.6/16			

(2) 中学校平均正答率

- ・ 全国と比べて国語は－3.8ポイント、数学は－4.8ポイント、英語は－3ポイントであり、全ての教科で全国の結果を下回る結果となった。

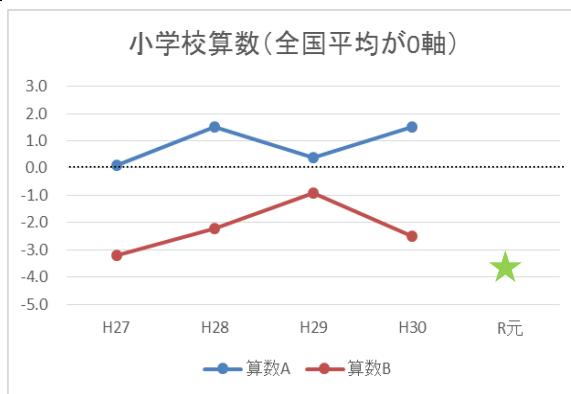
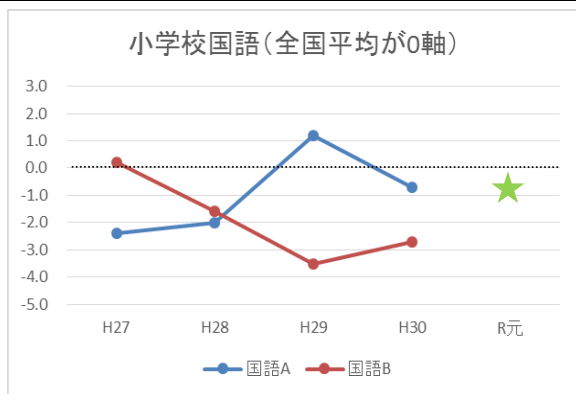
教科		平成30年度 (上段は平均正答率、下段は平均正答数)			令和元年度 (上段は平均正答率、下段は平均正答数)		
		本市	県	全国	本市	県	全国
国語	A	77 24.5/32	75 24.0/32	76.1 24.3/32	69 6.9/全10問	70 7.0/全10問	72.8 7.3/全10問
	B	59 5.3/9	58 5.3/9	61.2 5.5/9			
数学	A	66 23.9/36	64 23.2/36	66.1 23.8/36	55 8.9/全16問	57 9.1/全16問	59.8 9.6/全16問
	B	47 6.5/14	45 6.3/14	46.9 6.6/14			
理科		66 17.8/27	65 17.5/27	66.1 17.9/27			
英語					53 11.1/全21問	53 11.2/全21問	56.0 11.8/全21問
英語 話すこと					24.8 1.2/全5問	— 1.5/全5問	30.8 1.5/全5問

4 平成27年からの経年変化（全国平均正答率との差）

【小学校】

	H27	H28	H29	H30	R元
国語 A	-2.4	-2.0	1.2	-0.7	-0.8
国語 B	0.2	-1.6	-3.5	-2.7	
算数 A	0.1	1.5	0.4	1.5	-3.6
算数 B	-3.2	-2.2	-0.9	-2.5	

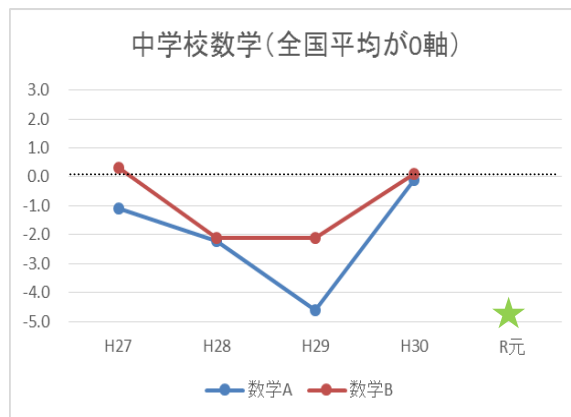
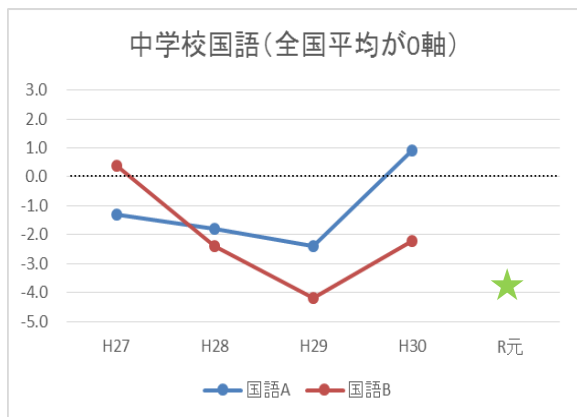
- 小学校は、国語が全国とほぼ同等の状況まで改善しているが、算数は全国を下回り、差が拡大した。



【中学校】

	H27	H28	H29	H30	R元
国語 A	-1.3	-1.8	-2.4	0.9	-3.8
国語 B	0.4	-2.4	-4.2	-2.2	
数学 A	-1.1	-2.2	-4.6	-0.1	-4.8
数学 B	0.3	-2.1	-2.1	0.1	

- 中学校は、昨年度国語と数学のどちらも改善傾向にあったが、今回はどちらも全国を下回り、差が拡大した。



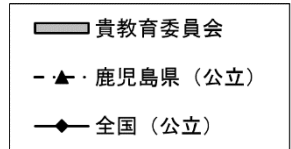
5 同学年における経年変化（H28：小6 → R元：中3）

【全国平均正答率との比較】

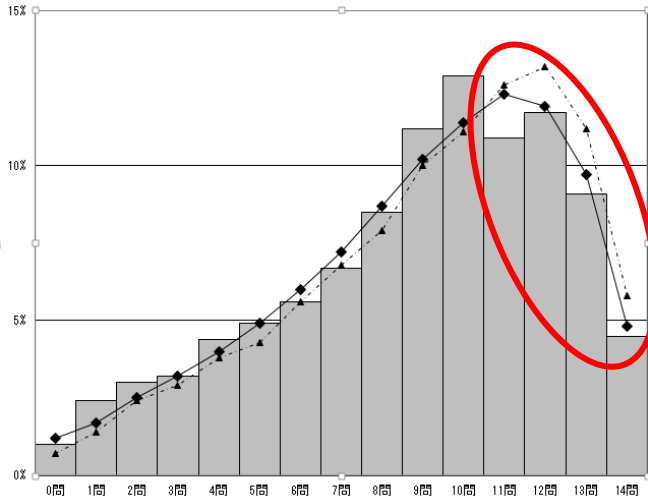
	小6時	中3時
国語A	-2.0	-3.8
国語B	-1.6	
算数・数学A	1.5	-4.8
算数・数学B	-2.2	

- 国語は小6時の課題が中3になっても継続しており、算数・数学は小6時よりも後退し、全国との差が拡大した。

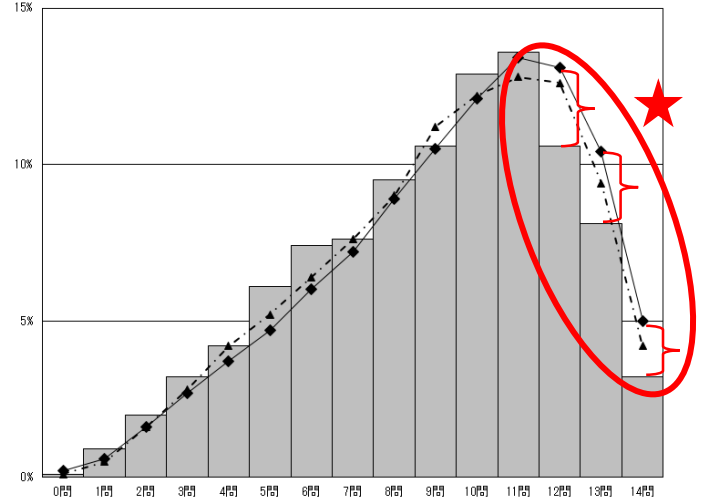
6 正答数分布グラフから（横軸：正答数、縦軸：割合）



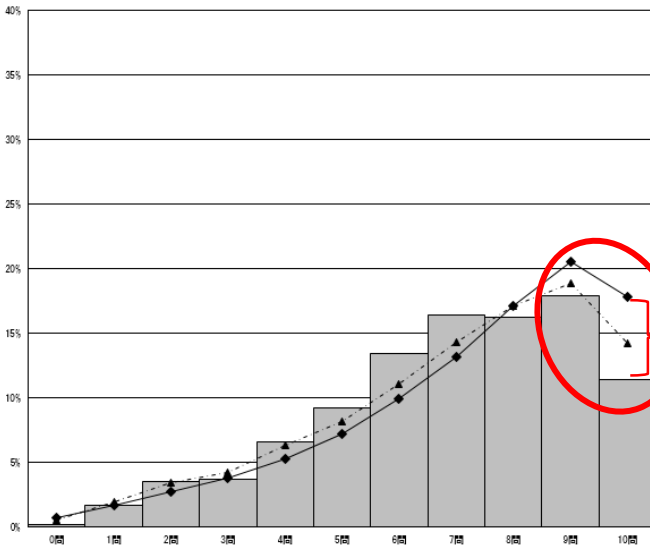
【小学校国語】



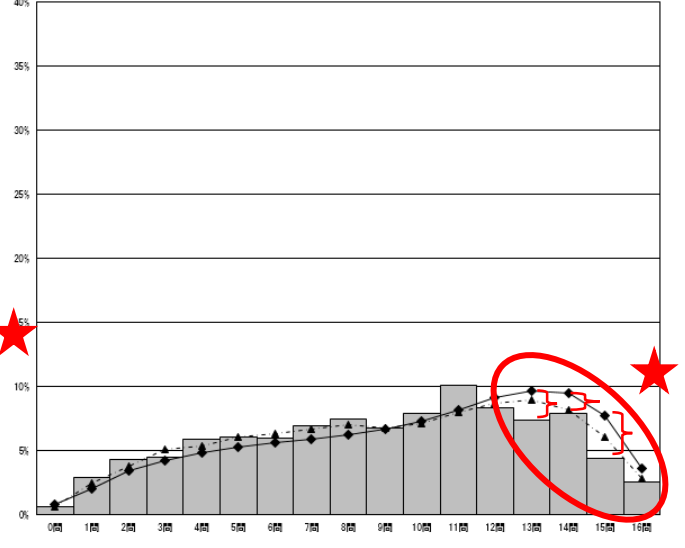
【小学校算数】



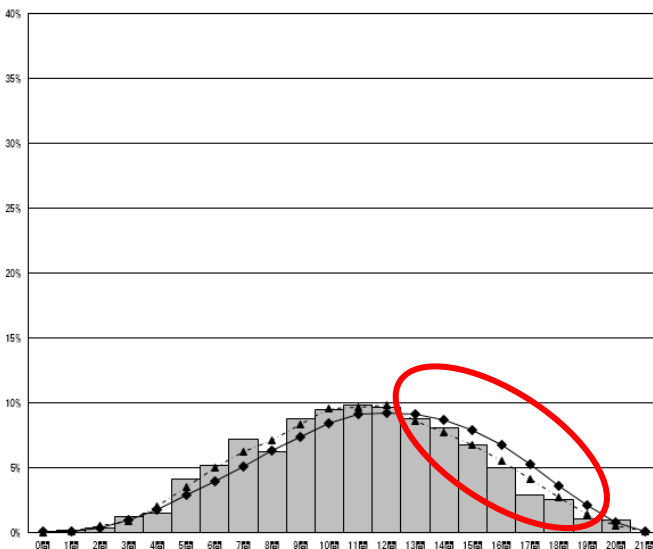
【中学校国語】



【中学校数学】



【中学校英語】



- 小学校・中学校ともに全ての調査において、赤の囲み枠で示した部分の上位層が全国平均と比べて少ないことが分かる。
特に、★印で示した小学校算数、中学校国語・数学が顕著である。
- 本市ではこれまで、アンダーアチーバー0（ゼロ）を目指し、特に学力の下位層の児童生徒に対する補充学習や個別指導を徹底し、このグラフからもある程度の成果が出ているといえる。しかし、今回浮き彫りとなった学力上位層の児童生徒を伸ばすために、各教科の学びの面白さと奥深さを日々実感させ、能動的な学びを追究していく児童生徒を育成する。

7 学習状況調査結果

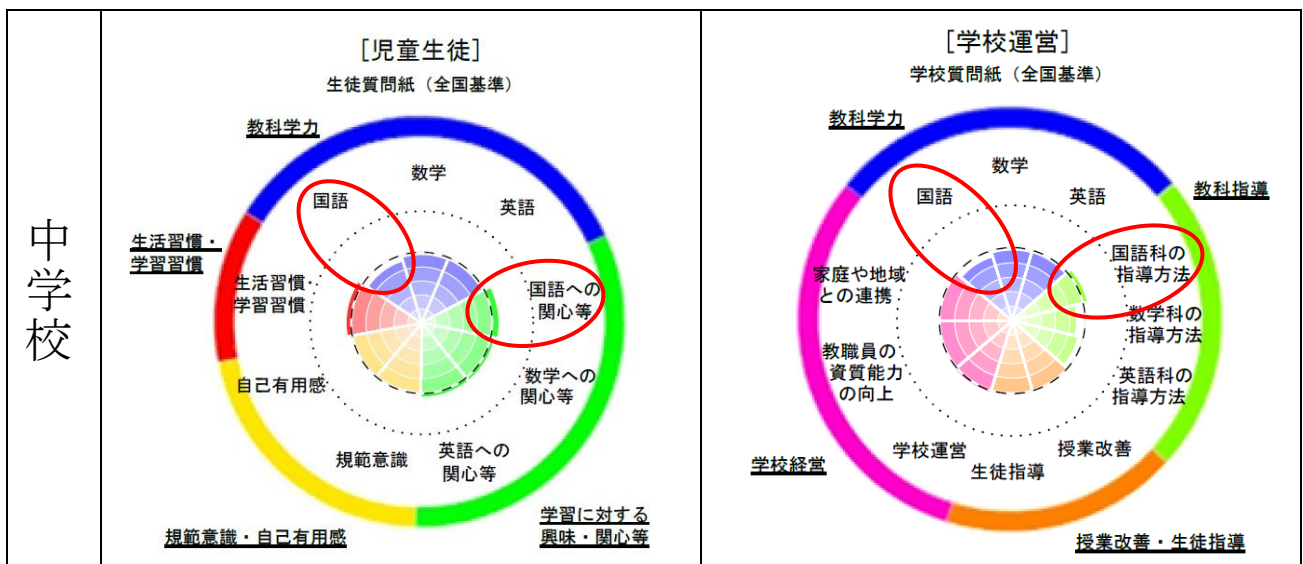
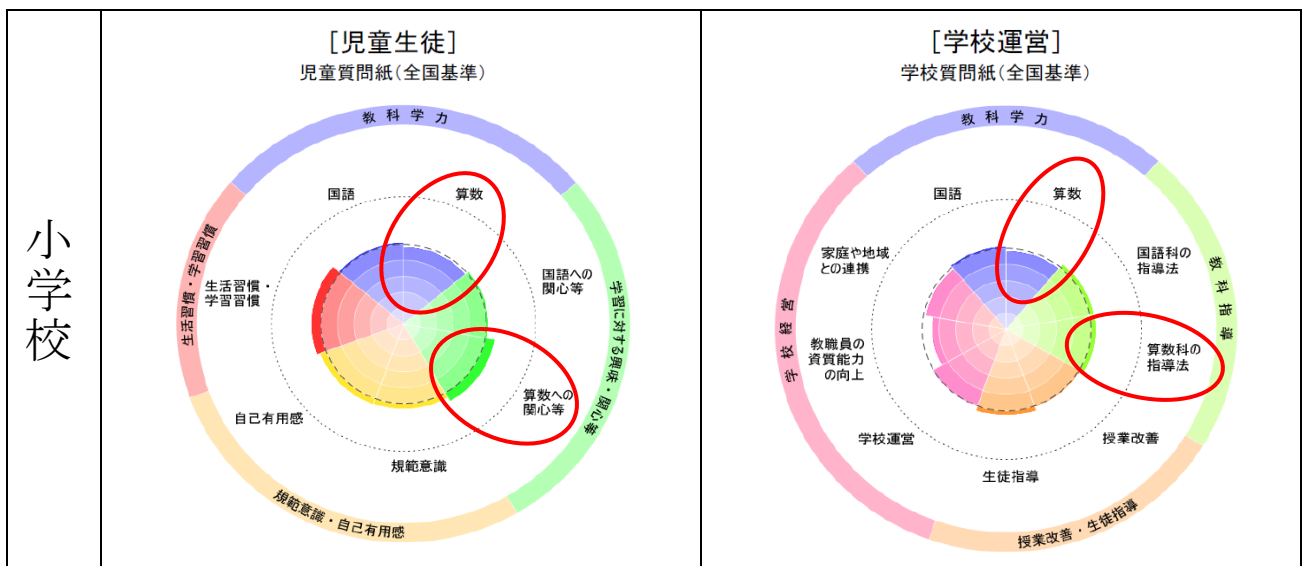
(1) 霧島市全体の傾向

ア 児童生徒質問紙から

- ・ 小・中学校ともに、生活習慣・学習習慣（朝食を毎日食べる。図書室・地域の図書館に週4回以上行く。）が全国を上回っている。
 - ・ 全国と比べ、小学校は算数への関心等が高いにも関わらず算数の調査結果は全国を下回る。同様に中学校は国語への関心等が高いにも関わらず国語の調査結果は全国の水準を下回る。
- 児童生徒の関心を生かした授業改善を一層推進し、関心が高い上位層を一層伸ばすことが必要である。

イ 学校質問紙から

- ・ 小学校では、算数科の指導法（ICTを活用した授業をほぼ毎日行う。）について、全国をやや上回っているが、算数の調査結果が全国を下回る。
 - ・ 中学校では、国語科の指導法（補充的な学習の指導をよく行った。）について、全国をやや上回っているが、国語の調査結果が全国を下回る。
- 小中ともに教師の教科指導に対して、学力の結果に結びついていないことから、授業改善に加えて、こまめに定着の見届けを行い、できるまで繰り返させるなどの指導が必要である。

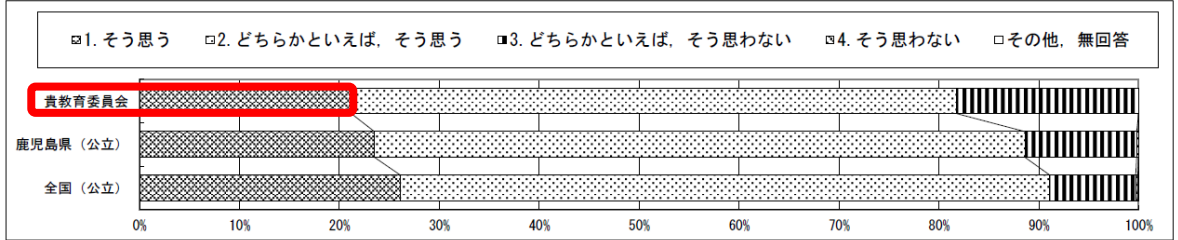


8 学習状況調査結果から

(1) 学校質問紙「児童生徒の学ぶ姿勢」に係る結果①（上段：小学校、下段：中学校）

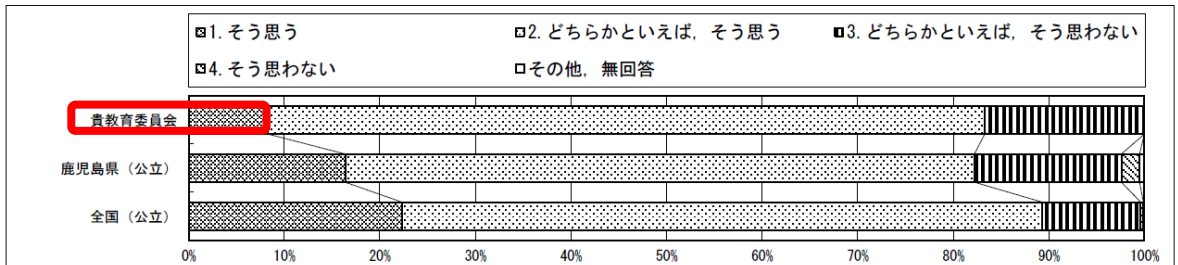
質問番号	質問事項									
(8)	調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
貴教育委員会	21.2	60.6	18.2	0.0						0.0
鹿児島県（公立）	23.5	65.1	11.2	0.2						0.0
全国（公立）	26.1	65.0	8.6	0.2						0.1

小学校



質問番号	質問事項									
(8)	調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
貴教育委員会	8.3	75.0	16.7	0.0						0.0
鹿児島県（公立）	16.4	65.9	15.4	1.9						0.5
全国（公立）	22.3	67.0	10.3	0.3						0.1

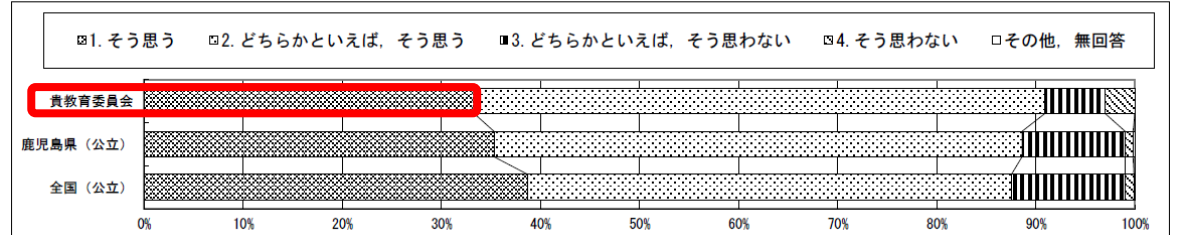
中学校



(2) 学校質問紙「児童生徒の学ぶ姿勢」に係る結果②（上段：小学校、下段：中学校）

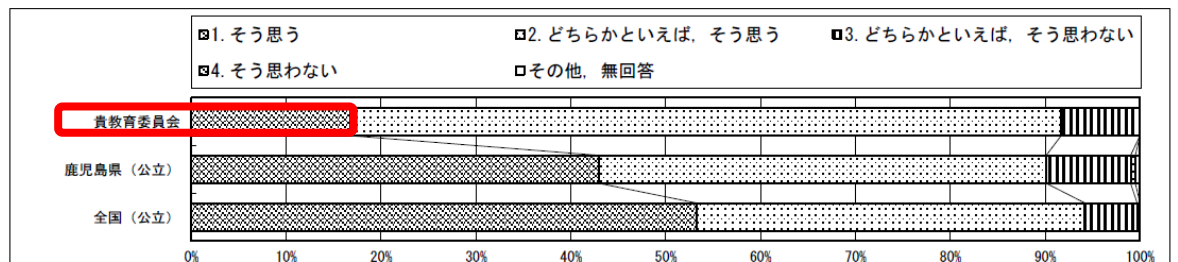
質問番号	質問事項									
(9)	調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
貴教育委員会	33.3	57.6	6.1	3.0						0.0
鹿児島県（公立）	35.3	53.3	10.4	0.8						0.2
全国（公立）	38.8	48.9	11.5	0.9						0.1

小学校



質問番号	質問事項									
(9)	調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
貴教育委員会	16.7	75.0	8.3	0.0						0.0
鹿児島県（公立）	43.0	47.2	8.9	0.5						0.5
全国（公立）	53.2	40.9	5.5	0.3						0.0

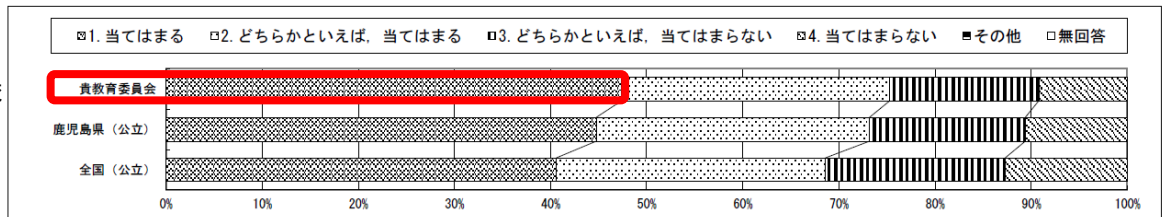
中学校



(3) 児童生徒質問紙「授業に対する考え」に係る結果①（上段：小学校、下段：中学校）

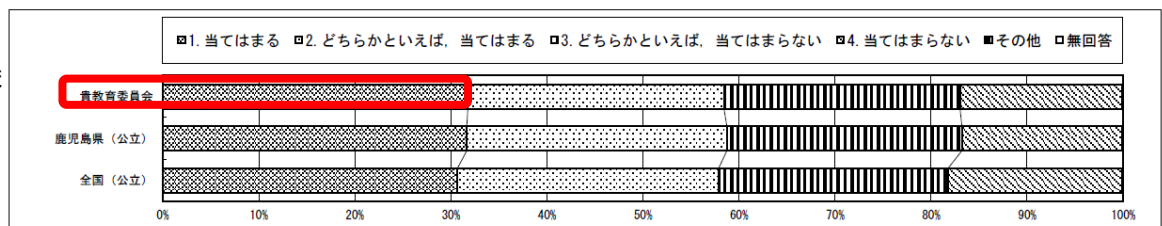
質問番号	質問事項										
(46)	算数の勉強は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	47.4	27.9	15.5	9.2						0.0	0.0
鹿児島県（公立）	44.7	28.4	16.2	10.6						0.0	0.0
全国（公立）	40.6	28.0	18.7	12.7						0.0	0.0

小学校



質問番号	質問事項											
(49)	数学の勉強は好きですか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	31.8	26.7	24.6	16.9							0.0	0.1
鹿児島県（公立）	31.7	27.1	24.5	16.7							0.0	0.1
全国（公立）	30.7	27.2	23.9	18.1							0.0	0.1

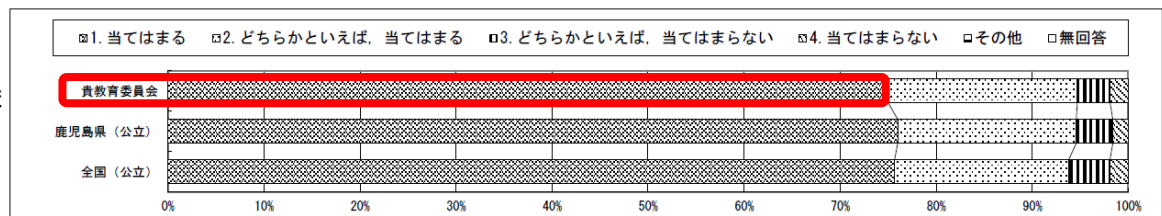
中学校



(4) 児童生徒質問紙「授業に対する考え」に係る結果②（上段：小学校、下段：中学校）

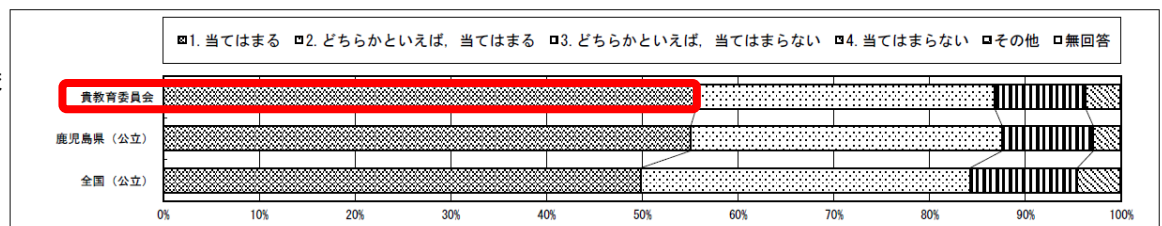
質問番号	質問事項										
(47)	算数の勉強は大切だと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	75.0	19.7	3.4	1.9						0.0	0.0
鹿児島県（公立）	76.0	18.6	3.8	1.6						0.0	0.0
全国（公立）	75.6	18.1	4.3	1.9						0.0	0.0

小学校



質問番号	質問事項											
(50)	数学の勉強は大切だと思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	55.6	31.2	9.5	3.6							0.0	0.1
鹿児島県（公立）	55.0	32.5	9.5	2.8							0.0	0.1
全国（公立）	49.8	34.4	11.2	4.5							0.0	0.1

中学校



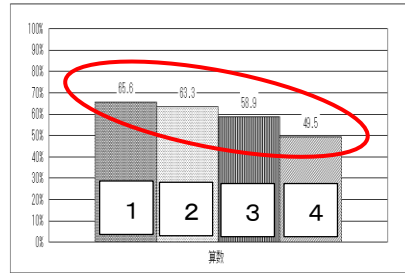
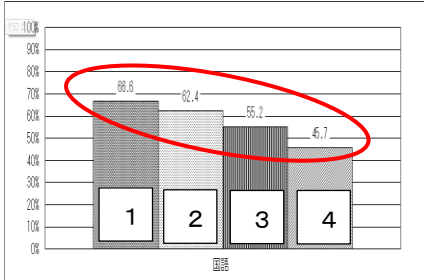
※ 前頁の(1)(2)からは、小・中学校ともに児童生徒の学ぶ姿に対して、教師は肯定的にとらえる割合が全国と比べて小さい。一方、本頁の(3)(4)からは、児童生徒は算数・数学の勉強が好きであり、大切であると思う児童生徒の割合が全国と比べて大きい。（国語もほぼ同様）
児童生徒の熱意を引き出し、分かる・楽しい・ためになる授業実践のために、授業改善を一層推進する必要がある。

9 自己肯定感に関する調査結果と分析

(1) 教科に関する調査と児童生徒質問紙とのクロス集計結果から

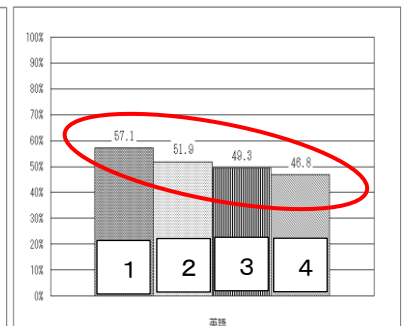
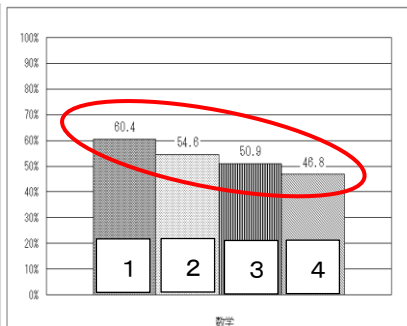
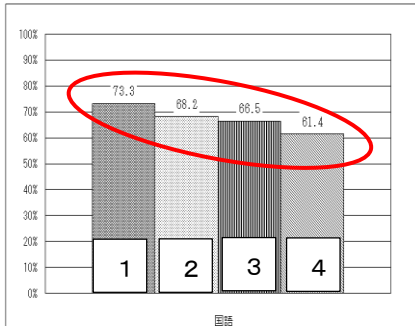
ア 小学校

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	児童の割合 (%)	平均正答率 (%)	
		国語	算数
1 当てはまる。	39.1	66.6	65.6
2 どちらかといえば、当てはまる。	47.7	62.4	63.3
3 どちらかといえば、当てはまらない。	10.8	55.2	58.9
4 当てはまらない。	2.4	45.7	49.5



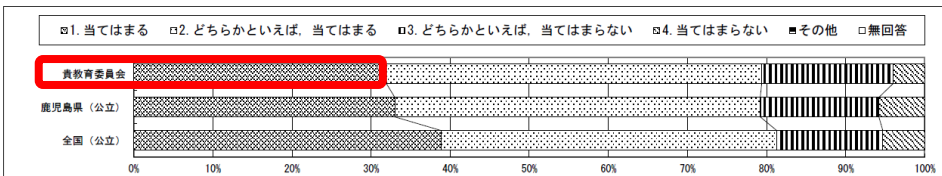
イ 中学校

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	生徒の割合 (%)	平均正答率 (%)		
		国語	数学	英語
1 当てはまる。	26.2	73.3	60.4	57.1
2 どちらかといえば、当てはまる。	56.9	68.2	54.6	51.9
3 どちらかといえば、当てはまらない。	14.3	66.5	50.9	49.3
4 当てはまらない。	2.7	61.4	46.8	46.8



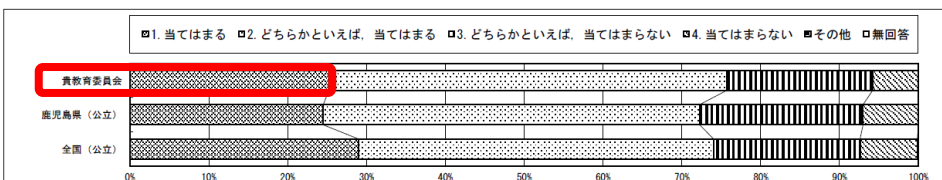
小学校

質問番号	質問事項										
(5)	自分には、よいところがあると思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	31.9	47.4	16.6	4.0						0.0	0.0
鹿児島県(公立)	33.0	46.2	15.0	5.8						0.0	0.0
全国(公立)	38.8	42.4	13.4	5.3						0.0	0.0



中学校

質問番号	質問事項											
(5)	自分には、よいところがあると思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	25.2	50.4	18.5	5.8							0.0	0.0
鹿児島県(公立)	24.5	47.7	20.7	7.0							0.0	0.0
全国(公立)	29.0	45.1	18.6	7.3							0.0	0.1



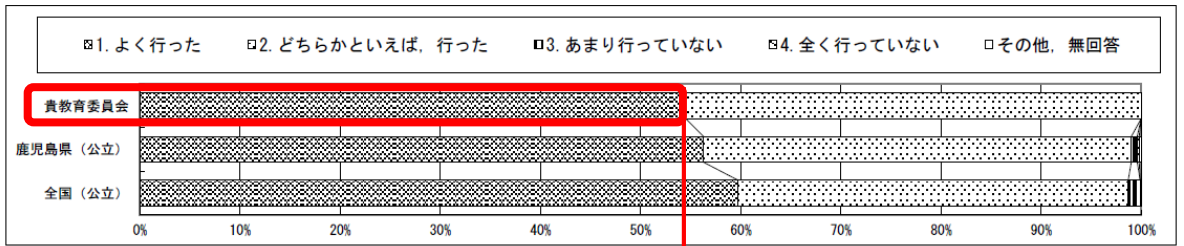
※ 上記のクロス集計では、教師によりよいところを認めてもらえていると実感している児童生徒ほど、小・中ともに全ての教科において正答率が高い傾向がある。

※ 左の自己肯定感に係る児童生徒質問紙調査では、小中ともに全国を下回っている。家庭とも連携し、本市の「ほめる運動」を学校教育の特に、授業において実践を強化して自己肯定感を高め、自ら学ぶ意欲をもった児童生徒を育成したい。

(2) 「自己肯定感」に係る学校質問紙と児童質問紙との比較結果（小学校）

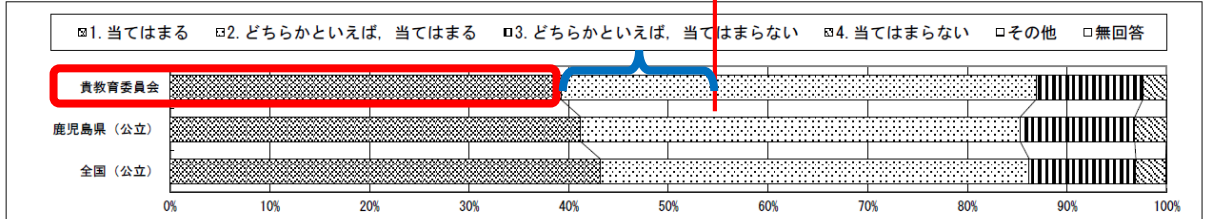
質問番号	質問事項									
(14)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
貴教育委員会	54.5	45.5	0.0	0.0						0.0
鹿児島県（公立）	56.3	42.7	0.6	0.2						0.2
全国（公立）	59.8	39.0	1.2	0.0						0.1

学校



質問番号	質問事項									
(6)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
貴教育委員会	39.2	47.6	10.7	2.4						0.0
鹿児島県（公立）	41.2	44.1	11.5	3.2						0.0
全国（公立）	43.1	43.0	10.7	3.0						0.1

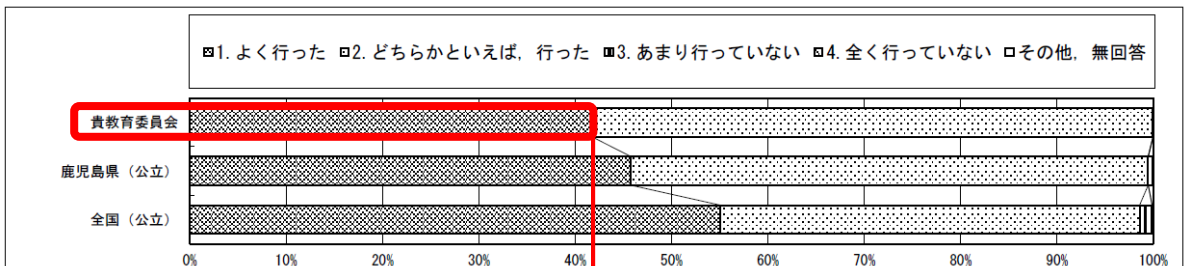
児童



(3) 「自己肯定感」に係る学校質問紙と生徒質問紙との比較結果（中学校）

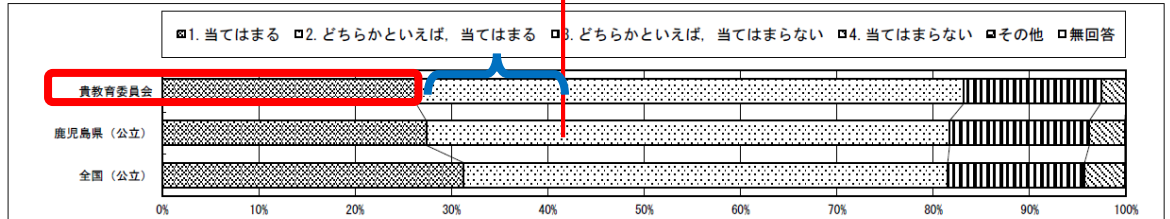
質問番号	質問事項									
(14)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
貴教育委員会	41.7	58.3	0.0	0.0						0.0
鹿児島県（公立）	45.8	53.7	0.0	0.0						0.5
全国（公立）	55.1	43.5	1.3	0.0						0.1

学校



質問番号	質問事項										
(6)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他、無回答
貴教育委員会	26.3	56.8	14.2	2.6							0.0
鹿児島県（公立）	27.4	54.3	14.5	3.7							0.1
全国（公立）	31.3	50.2	14.2	4.2							0.1

生徒



※ 小中ともに教師と児童生徒の認識に大きな違いがある。この認識の違いについて、各学校の実態を把握して全職員で共有し、日々の授業の中で教師からも周りの児童生徒からもよさを認めてもらえる機会を意図的に設定する必要がある。

10 今後の学力向上に向けた対策について

(1) 霧島市「学力向上プラン」を基盤とした、【授業改善】と【定着の見届け】の推進

ア 霧島市「学力向上プラン」について

結果につながる意識を全職員にもたせる 目的で、本年度の様式には全国学力・学習状況調査の平成 29 年度から今年度までの 3 箇年分の全国と自校との差を数値で示す欄を新設した。

イ 授業改善と定着の見届けの概要について

市の重点	実践内容
【授業改善】 ○ 「授業連動型家庭学習」による授業改善	・ 「学力向上プラン」の重点対策の一つを市共通実践事項として設定 ・ 市指定研究協力校等での授業公開（牧園中：令和元年度～令和 2 年度） ・ リーフレット『霧島市「授業連動型家庭学習」の手引き』の市内全職員への配布 （平成 31 年 4 月）
【定着の見届け】 ○ 改善した授業によって児童生徒の学力が定着しているかどうかの見届け	・ 「当該学年で必ず身に付けさせたい力を問う重点問題一覧」の作成と配布 ・ 「学力向上プラン」の授業づくりの視点として設定 ・ 霧島市「今週の 1 問」の配信 （令和元年 7 月から）

(2) 「授業連動型家庭学習」の実践【授業改善】（10 ページ参照）

ア 「授業連動型家庭学習」の目的を全職員に周知する。

- 単元全体を見通した授業設計をすることにより、一単位時間の授業で身に付けさせたい力を明確にして日々実践する。（子供によるまとめ・振り返りまで完結する授業の継続）
- 家庭学習で学んだことを授業に生かす、授業で学んだことを家庭学習に生かすことで学力を向上させる。

イ 「授業連動型家庭学習」による授業改善について、全職員の組織的な取組を推進する。

- 「授業連動型家庭学習」による授業を全職員が実践する。
- 児童生徒が持ち寄った家庭学習を認め合い、授業では家庭学習を活用して対話活動を充実させ、授業で活躍した児童生徒のよさを称賛し合い、自己肯定感を高める。
- 「授業連動型家庭学習」による授業改善事例を全職員で共有し、未実施の職員の実践意欲を高めるとともに授業改善の意識を高める。

(3) 霧島市「今週の 1 問」の配信【定着の見届け】（10 ページ参照）

ア 目的

毎週、重点問題（毎年繰り返し出題される問題等）に触れさせることを市の共通実践にすることで、当該学年で必ず身に付けるべき力は当該学年のうちに確実に身に付けさせ、児童生徒一人一人の進路実現や今後の社会に対応できる資質や能力を育成するための契機とする。

イ 配信する学年及び教科（対象：市内全小・中学校）

- ・ 小学校 5・6 年：4 教科 [国語・社会・算数・理科] から 1 問
- ・ 中学校 1～3 年：5 教科 [国語・社会・数学・理科・英語] から 1 問

ウ 配信について

- ・ 7 月 1 日（月）から開始し、原則月曜日に各学校にメールで配信する。

[資料]

リーフレット『霧島市「授業連動型家庭学習」の手引き』の一部



霧島市教育委員会では、子どもたちが家庭学習で学んだことを授業設計に位置付けた「授業連動型家庭学習」の実践を通して、学力向上を目指しています。

授業

授業連動型家庭学習による授業のメリット

【授業者】

- 値の考えを生かした授業設計ができるため、教師による教え込みの授業から、児童生徒が主体となって活動する授業へと転換を図ることができます。
- 家庭で自分の考えを準備してから授業に臨むので、思考力や表現力などの活用力を伸ばす時間を十分に確保することができます。
- 家庭学習は、全ての学年・教科に関わるため、全ての教員が共通テーマとして全校体制で取り組むことができます。

練られた良い授業は、授業の各場面で児童生徒の「あいうえお」が見られます。

「あっ！」・・・発見、気付き

「いいね。」・・・共感、よさ

「う〜ん。」・・・思考、問い

「えっ!!」・・・驚き、ずれ

「おお〜。」・・・納得、実感

定着と発展につなぐ ← 疑問や考えをつなぐ

家庭学習

授業連動型家庭学習による家庭学習のメリット

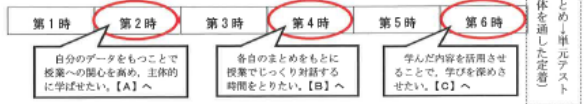
【児童生徒・保護者】

- 次時の授業にワクワクした気持ちで臨むことができ、意欲的な学びの習慣化が期待できます。
- 個人で深める課題に自分のペースで納得できるまで取り組むことができます。
- 家庭をまきこみ、保護者にも授業の様子が伝わることで、学習に対する理解や協力がより得られる効果が期待できます。(子どもの成長を共に喜ぶ)

○ はじめに

基礎的・基本的な内容を定着させる家庭学習(例:漢字、計算、英単語・英作文等)も大事にしながら、単元全体を見通して【授業連動型家庭学習】を効果的に位置付けた単元の指導計画を作成してみましょう。以下の例を参考にして、授業と家庭学習をひとまとめた教材研究により、児童生徒の頑張りや考えを生かした「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりを目指していきましょう。

例) ○○科 ある単元(全6時間)



○ 【授業連動型家庭学習】のイメージは以下のとおり

類型	活動	効果
【A】P2 Myデータ作成型 (イメージ)	次時の学習内容に関して、自分で調べたり記録したりして準備しておく。	家庭学習で一人一人が調べたデータや、まとめた考えを使い、次時の授業で思考させたり、発表させたりすることができます。自分のデータや考えが授業に生かされるため、 主体的な学び につながります。
【B】P3 深化・発展型 (イメージ)	次時の発表等のために、自分の考えをまとめ、発表に必要な資料をそろえておく。	家庭学習で一人一人がじっくり考えた成果物(作文や調査したことのまとめ、解き方等)を授業で発表したり、グループで教え合いをしたりする時間が十分確保できるため、 対話的な学び につながります。
【C】P4・5 既習内容活用型 (イメージ)	学んだことが確実に身に付いているかを定期的に確認する。	理解した内容を保護者や身近な人に説明する活動等は、学んだことを関連付けたり、生活と結び付けたりするなど、高度な思考を必要とするため、 深い学び につながります。また、かごしま学力向上支援Webシステムの活用問題等を経くことにより、学んだ知識や技能を活用できるレベルに高めます。

霧島市「今週の1問」(令和元年9月17日に配信された問題から)

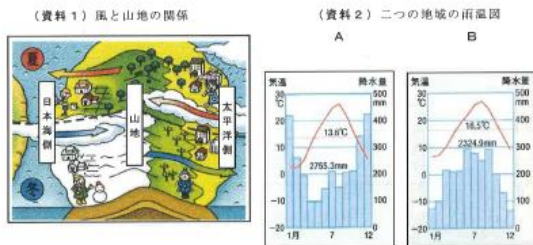
霧島市「今週の1問」
小6社会 9月17日版
進路・夢実現に向けて、この1問をクリアしよう!!

名前

(1127鹿児島県学習定着度用題から)

- 1 日本は、南北に細長く、本州の中央部には山地や山脈が連なっています。資料1に示したように、この山地や山脈と(①)風の影響によって、太平洋側と日本海側では気候の特色に大きな違いが見られます。下の資料2のグラフは、月ごとの降水量と平均気温を示しており、A・Bのうち、日本海側にある新潟県上越市のグラフは(②)の方です。

日本は、南北に細長く、本州の中央部には山地や山脈が連なっています。資料1に示したように、この山地や山脈と(①)風の影響によって、太平洋側と日本海側では気候の特色に大きな違いが見られます。下の資料2のグラフは、月ごとの降水量と平均気温を示しており、A・Bのうち、日本海側にある新潟県上越市のグラフは(②)の方です。



- ① 風
- ② (記号)

- (2) (1)の②でAかBのいずれかを選んだ理由について、(資料1)を見て分かることを文章で表して書きましょう。

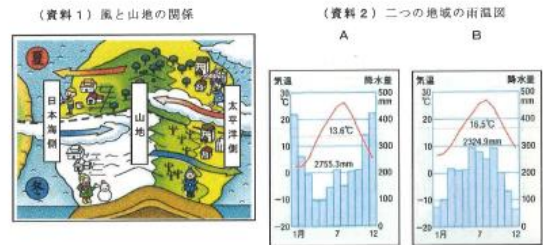
霧島市「今週の1問」
小6社会 9月17日版
進路・夢実現に向けて、この1問をクリアしよう!!

解答

(1127鹿児島県学習定着度用題から)

- 1 日本は、南北に細長く、本州の中央部には山地や山脈が連なっています。資料1に示したように、この山地や山脈と(①)風の影響によって、太平洋側と日本海側では気候の特色に大きな違いが見られます。下の資料2のグラフは、月ごとの降水量と平均気温を示しており、A・Bのうち、日本海側にある新潟県上越市のグラフは(②)の方です。

日本は、南北に細長く、本州の中央部には山地や山脈が連なっています。資料1に示したように、この山地や山脈と(①)風の影響によって、太平洋側と日本海側では気候の特色に大きな違いが見られます。下の資料2のグラフは、月ごとの降水量と平均気温を示しており、A・Bのうち、日本海側にある新潟県上越市のグラフは(②)の方です。



- ① 季節 風
- ② (記号) A

- (2) (1)の②でAかBのいずれかを選んだ理由について、(資料1)を見て分かることを文章で表して書きましょう。

新潟県上越市は日本海側にあるので、冬は日本海にのめった空気をつくった季節風が山地にぶつかり、雨雲ができて雪や雨が多く降ります。冬の1月や12月に降水量が多いのは、Aのグラフだから。